

「地理的な見方・考え方」を育む資料

見方・考え方が働く図版や本文

「地理的な見方・考え方」を丁寧に説明

▶教科書の巻頭7では、「地理的な見方・考え方」とは何かを端的に理解できる事例を、わかりやすく説明しています。

地理的な見方・考え方について



漢字の看板があふれるニューヨークの街角 (アメリカ合衆国)



地理は、目に映るものすべてが題材になります。ここでは、地理を学習する際のヒントとなる視点を示しています。ここで挙げた視点を意識しておく、各ページで何を学ばよいか、分かりやすくなります。また、ここで挙げた視点をいくつか組み合わせると、より地理の学習が楽しくなります。

位置や分布 >> どこにあるのだろうか？どこに広がっているのだろうか？



板橋区ってどの辺りにあるのかな？板橋区内の学校は、どこに点在しているのかな？



友達が通っている学校は、東京都板橋区にあるんだよ。板橋区の中でも、西の端にあるんだ。

その場所の特徴 >> そこはどのような場所だろうか？



でもブラジルって、日本とは全く違う位置にあるよね。そこになぜ日本人の街があるのかな？



ブラジルには、日本人と関係の深い街があるんだって！

人と自然の関係 >> 人々の生活と自然の間には、どのような関係があるのだろうか？



でも木がない所では、家は何で造られているんだろう？



木がたくさん生えている所の家は、やっぱり木でできているんだね。

ほかの場所への影響 >> その場所での出来事は、ほかの場所にもどのように影響しているのだろうか？

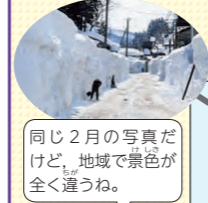


もし輸入されるえびがなくなったら、私たちの食事に影響があるのかな？



インドネシアにはえびの養殖場があって、日本にも輸出しているんだって！

地域全体の傾向 >> その地域全体を特徴づけているものは何だろうか？



三つの地域のまとまりには、それぞれ何か共通するものがあるのかな？



同じ2月の写真だけど、地域で景色が全く違うね。



位置や分布

▶「それはどこにあるのだろうか？」「なぜそこに分布するのだろうか？」といった「地理的な見方・考え方」が働くよう、地図や本文、図版などを工夫しています。

第2章 日本の姿



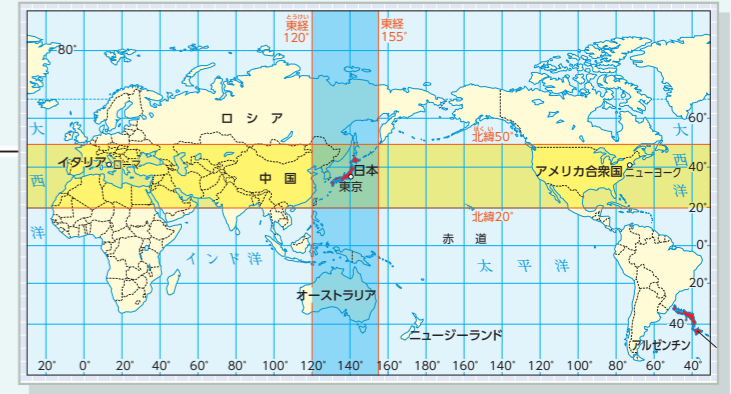
1 世界の中の日本の位置
緯度・経度で世界の日本の位置を説明するには、第1部第1章で学習した緯度・経度や、周りの大陸や海を参照して見るとよいでしょう。

緯度・経度で世界の日本の位置を見てみると、緯度では、日本はおよそ北緯20度から50度の間にあり、アメリカ合衆国や中国、アフリカ大陸北部からヨーロッパ南部などと同じくらいです。南緯やアルゼンチンなどがあります。また、経度では、およそ東経120度から155度の間にあり、オーストラリアと同じくらいです。

p.14

【例】p.14「世界の中の日本の位置」

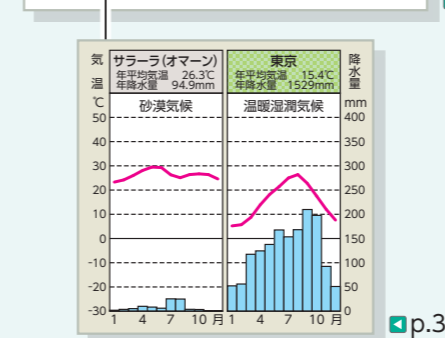
日本を世界地図上で表現することで、日本の位置を視覚的に捉え、本文で説明することで、分布についても理解できます。



p.14 3

緯度・経度を用いて日本の位置を見てみると、緯度では、日本はおよそ北緯20度から50度の間にあり、アメリカ合衆国や中国、アフリカ大陸北部からヨーロッパ南部などと同じくらいです。南緯

p.14 本文 4-6 行目



p.32 3

【例】p.32「乾燥した地域の暮らし」

乾燥帯の分布を地図や本文から理解し、気温図からなぜ乾燥帯となっているのかを考えることができます。



p.32 2

アラビア半島の位置と自然 世界には、雨が少なく、草木がほとんど育たない乾燥した地域がみられます。例えば、アジアに位置するアラビア半島もその一つであり、そこには広大な砂漠が広がっています。

p.32 本文 1-4 行目

特色 4 「地理的な見方・考え方」を育む資料 見方・考え方が働く図版や本文

場所

▶「それはどんな場所なのだろうか?」「それはその場所だけにあるものだろうか?」といった「地理的な見方・考え方」が働くよう資料や本文を工夫しています。

【例】 p.32 「乾燥した地域の暮らし」、p.34 「温暖な地域の暮らし」

場所がイメージしやすく、ほかのページと比較できるため、「地理的な見方・考え方」が自然に働きます。



p.32 1



p.34 1

人と自然環境との相互依存関係

▶「そこでの生活は、自然環境からどのような影響を受けているのだろうか?」「その生活は変化するのであろうか?」といった「地理的な見方・考え方」が働くよう資料や本文を工夫しています。

使ったうす焼きパンのような料理がよく見られます。衣服は日中の強い日ざしや砂ぼこりから身を守るために、長袖で、丈の長いものを着ています。また、森林が少なく木材を得にくいので、伝統的な家には、土をこねて作った日干しれんがを利用しています。

p.33 本文 2-5 行目

【自然環境のもとでの生活】



日干しれんがで造られた家々(オマーン北部、2018年9月撮影) 資料活用 家の屋根の様子に注目しよう。



伝統的な衣服を着た人々(オマーン北部、2018年9月撮影) 資料活用 服のつくりや丈に注目しよう。

【例】 p.32 「乾燥した地域の暮らし」

乾燥した自然環境のもとでの生活がわかる本文と資料を掲載するとともに、生活の変化がわかる資料を掲載しました。

【生活の変化】



ショッピングセンターにある日本の雑貨店(アラブ首長国連邦、ドバイ、2018年撮影)

空間的相互依存作用

▶「そこは、それ以外の場所とどのようにつながっているのだろうか?」「なぜそのようなつながりがあるのだろうか?」といった「地理的な見方・考え方」が働くよう資料や本文を工夫しています。



p.108 1

【例】 p.108, 112 「南アメリカ州」

南アメリカ州とヨーロッパ州のつながりが、カーニバルを題材に理解できます。

融合から生まれたさまざまな文化 華やかさで世界中に知られるリオデジャネイロのカーニバルは、ヨーロッパとアフリカの文化が南アメリカで融合して生まれた祭りです。カーニバルはもとも、ヨーロッパのカトリックを信仰する人々の宗教行事ですが、アフリカ系の人々がもち込んだ文化が加わったことで、サンバのリズムで踊るにぎやかな祭りに変化しました。アルゼンチンの舞踏音

地理的事象の背景 p.112 本文 16 行目 -p.113 3 行目

文明が栄えていました。しかし16世紀になると、スペインやポルトガルなどのヨーロッパの人々が進出しました。彼らは先住民の文明を滅ぼして植民地をつくり、ヨーロッパの文化を南アメリカにもち込みました。そのため、現在でも多くの国々でスペイン語やポ

p.112 本文 3-6 行目

地域

▶「そこはどのような特徴をもった地域なのか?」「どのような地域になれば良いか?」といった「地理的な見方・考え方」が働く構成になっています。

【例】 p.206～215 「近畿地方」

日本の諸地域では、各地方を一つのテーマに沿って、自然環境、生活・文化(歴史)、産業などの切り口で展開することで、地域の特徴を捉えやすくしています。



p.206

「近畿地方」の展開については本資料 p.21-26 参照



p.208



p.212

「地理的な見方・考え方」を育む資料 充実した地理的技能の作業

写真の読み取り方

▶写真から地理に関する情報を読み取る技能を身に付けられます。写真が多く登場する前の、第2部第1章「人々の生活と環境」の冒頭に設置しています。

技能をみかく 8 写真の読み取り方

写真を読み取るポイントを知っていると、実際には行ったことがない場所でも、写真からその土地の気候などの自然環境や、人々の生活の様子などを読み取ることができます。ここでは、市場の写真を用いて、写真を見るときに注目すべきポイントを知り、写真からさまざまな情報を得る方法を学んでいきましょう。

帝国書院撮影

衣服や店の様子に注目
パラソルで強い日差しを避け、半袖で風通しがよさそうな衣服を着ている。

売りに注目
パイナップルやパパイヤなど、南国の果物がたくさん売られている。

この写真が撮られた地域は暑い気候の地域ではないかと考えられる。

←4 インドネシアの市場 (フロレス島, 2018年9月撮影)

帝国書院撮影

売りに注目
乾燥した気候に強いらくだが売られている。

衣服に注目
長袖で丈の長い服を着て、頭に布を巻きつけた人が多い。

らくだが飼育されていることから乾燥した地域であり、人々は強い日ざしや砂ぼこりから身を守るための衣服を身につけていると考えられる。

←3 アラビア半島のらくだ市 (アラブ首長国連邦 西部, 2018年9月撮影)

帝国書院撮影

やってみよう
写真6を、次のアとイのポイントで観察し、読み取ったことから考えられることを、自分なりに説明しよう。
ア. どのような商品が、どのような状態で売られているか。
イ. 市場に来ている人は、どのような衣服を身につけているか。

←6 シベリアの市場 (ロシア, ヤクーツク, 1月撮影)

1章 人々の生活と環境

p.27

自社撮影写真により、地理的事象がより端的に読み取れる写真を使用しています。

写真の読み取り方や地図やグラフの読み取り方など、「地理的な見方・考え方」を働かせる上でも大切な技能を着実に習得できるよう、「技能をみかく」を23テーマ設置しています。学習内容に応じて、適切な技能を習得できるよう、教科書での配置も工夫しています。

主題図の読み取り方

地図には、地形図(→p.134)や日本全国のように、地形や地名、道路などのさまざまな情報を、特定のテーマに偏ることなく描いた一般図のほか、特定のテーマを詳しく描いた地図があり、これを**主題図**といいます。なかでも、統計資料を地図に表したものは、**統計地図**ともよばれます。

地理の学習では、統計資料を読み取るだけでなく、その分布の傾向から、地域の特徴をつかむことも大切です。統計地図には、表したい統計資料の種類によって、さまざまな表現方法があります。また、複数のテーマの統計地図を比較すると、1枚の統計地図からは分らなかったことが読み取れることがあります。

さまざまな統計地図

① **ドットマップ**…分布地点の数を点(ドット)で表した図です。人口や生産量などの集中の度合いが読み取りやすくなります。

② **等値線図**…等しい数値の地点を線で結んだ図です。気温を示した等温線図、降水量を示した等降水量線図などがあります。

③ **図形表現図**…円や正方形などの図形やイラストの大きさによって、地域ごとの統計数値を比較できるようにした図です。

④ **階級区分図**…地域ごとの比率や密度を、色や模様などで表現した図です。

⑤ **階級区分図**…階級によって分けられている色に注目しよう。

p.46

技能をみかく一覧(全23テーマ)

1	p.5	地図帳の統計資料の使い方
2	p.9	地図帳のさくいんの引き方
3	p.9	地図帳での緯度・経度の調べ方
4	p.11	地球儀での距離と方位の調べ方
5	p.12	世界の略地図の描き方
6	p.17	時差の調べ方
7	p.24	日本の略地図の描き方
8	p.27	写真の読み取り方
9	p.29	雨温図の読み取り方
10	p.45	グラフの作り方
11	p.46	主題図の読み取り方
12	p.133	ルートマップの作り方
13	p.134	地形図の使い方①～縮尺と地図記号～
14	p.136	地形図の使い方②～等高線と断面図～
15	p.136	新旧の地形図の比較
16	p.137	地形図の使い方③～「地理院地図」～
17	p.139	調査ノートの取り方
18	p.139	聞き取り調査の手法
19	p.152	ハザードマップの読み取り方
20	p.153	防災情報の入手のしかた
21	p.155	人口ピラミッドの読み取り方
22	p.294	展示発表のしかた
23	p.295	ポスターの作り方

主題図の読み取り方

▶主題図の意味や見方に関する技能を身に付けられます。主題図が多く登場する、第2部第2章「世界の諸地域」の学習の前に設置しています。

地形図の使い方

▶地図記号や等高線、新旧地形図の比較などの技能を身に付けられます。地形図は、地域調査を行う際に使用することが見込まれるため、第3部第1章「身近な地域の調査」の中に設置しています。

技能をみかく 14 地形図の使い方② ～等高線と断面図～

地形図には、土地の起伏を表すために、地表の同じ高さの所を結んだ**等高線**が描かれています。等高線には、表1のように種類があり、その種類によって間隔が異なります。等高線の間隔が広いほど地表の傾斜は緩やかで、等高線の間隔が狭いと傾斜が急になります。山頂や等高線の途中にある数字は、その場所の標高を示しています。

① **等高線の種類**

② **等高線から読み取る谷と山** 標高が高い側から見て、等高線がVの字に曲がっている所が谷で、逆の方向に曲がっている所が山頂になります。

③ **断面図を作ろう**

図3の断面図を完成させ、等高線の間隔と地表の傾斜の関係を確かめよう。

技能をみかく 15 新旧の地形図の比較

地形図は、明治時代から何年かおきに作られています。そのため、地域の現在と昔の様子を比較する際には有効な資料で、地形や土地利用、道路などが、どのように変化してきたのかを確認することができます。

① **群馬県大田地域の地形図の変化**(2万5千分の1地形図「志木」昭和30年発行(左)、2万5千分の1地形図「志木」平成31年1月調製(右))

※1955年当時の地形図には標高の記号がなく、この地形図のAで示した断面では、空地を灰色で塗りつぶして表示しています。

p.136